

# アルパック ニュースレター



お初天神ビルがオープンしました

## アルパック ニュースレター もくじ

● 第2コーナーへの助走段階へ……………	2
● コピーがオリジナルを越える……………	4
● お初天神ビルがオープンしました……………	8
● 空からみるベイエリア……………	9
● 京都市中京青年の家外壁保存顛末記……………	10
● ちんちん電車搭乗記……………	10
● Attenti Alle Tache !……………	11
● 「大学と地域」国際シンポジウム……………	12
● 新刊旧刊書評紹介……………	13
● まちかど……………	14

## 第2コーナーへの助走段階へ

一内側からみたコンサルタント業界とアルパッカー

金井 萬造

アルパッカーの過去、現在から、将来へ向けた動きを関西などのコンサルタントの業界の動きとも重ね合わせながら、キーワード的にご報告してみたいと思います。

### 過去25年間の展開

〈作業コンサルタント時代〉

発足間もない昭和40年代の高度成長の時期には、調査や計画のアウトプットがあらかじめ既定の与件として与えられていくという性格が強く、コンサルタントはアウトプットを見通した上で、報告書の筋道を組立て「まとめる」作業が主であったように思います。行政や企業においてオーバーフローした業務をお手伝いするものが多かったような気がします。

〈「問題解決型」コンサルタントへ〉

現在の経済のバブルがはじけた状況とよく似ていますが、昭和48年のドルショックやオイルショックの後、よりまじめで、真剣な形で業務に取組まざるを得なくなった期間が昭和40年代終りから50年代前半にかけてあったように思います。地域計画の原点に立ち帰って、委託内容は、スタート時点で与えられた「問題」に対して、ゴールに向けた「回答」を作成する「問題解決型」の業務が多くなり、コンサルタントとしての基礎能力をつける段階であったと思います。

〈「課題」の「総合的解決」へ〉

昭和50年代後半頃より、委託内容は、与えられた問題への単なる回答から、地域の客観的状況を踏まえて、委託者の問題意識を乗り越えて、地域振興という全体的な目標の中で「課題」を把握し、その「課題」を「総合解

決」することが求められていったように思います。

〈地域「政策」と「推進」の時代へ〉

昭和60年頃から平成の現在にかけて、「コンセプト」という言葉で代表される地域政策についての提案力と事業推進的な力量を持つこと、つまり、シンクタンクからドゥー（実行）タンクへともいうべき、我々への要請が強まっています。この社会的要請に対応するためには、調査計画の委託を受けて課題の総合的解決のための業務展開力とともに、アウトプットについてのコンセプト・メーカーの能力が必要になってきました。コンサルタントとしての「価値創造プロセス」と、地域に密着した「事業推進プロセス」とを保持できるようでないと、「評価」もいただけないという厳しい状況を迎えました。

〈今までのコンサルタントの関数は、

$= f n$  (技術、政策、推進、人脈、情報)〉

コンサルタントに対し、調査計画のみならず事業化・地域づくりの具体化まで一貫した能力を発揮していくことが要請されてきています。その結果、今まで申し上げたもの以外に、社会的要因である人脈や情報などがさらに大切な機能として位置づけられてきました。「人・まち・地域」にかかわる要素対応が重要だからです。

まさに職能を通しての本職での真剣勝負の時代になっていると思います。

模索を続け、出口をさぐる現在

コンサルタントの現場では、多くの問題点をかかえながらも、それぞれの組織で未来に向けた出口を求めて、模索を続けています。

### 〈人材の確保〉

他の職業分野と比較して、将来のコンサルタント業界を託す若い人材の確保は厳しい状況にあります。対応としては、コンサルタント業界の展望と将来の姿を明確に示すことが求められています。

今こそ、コンサルタント業界の将来への課題として、共同的により抜本的な取り組みを行う時期に来ているように思います。

### 〈業務の質の向上〉

従来にも増して、業務について「質」の問題が注目され出しています。

アルパックでの努力として、研修制度の充実とOJT（日常業務中の訓練）による日々の努力を続けています。

### 〈経済基盤の強化〉

人、情報を財産とするコンサルタントの経済基盤については、多くの企業が弱い状況にあります。

しかし、企業の存立基盤としては、重要な課題であり、最近の業界の機関誌にも経営の基礎指標と分析結果が出て、急速に認識が進んでいる状況です。

資本金の拡充、内部留保の確保、特に固定資産づくりへの対応なども課題になっています。

### 〈「残業べらし」で3K脱却へ〉

コンサルタントのイメージが若い人達によく受け入れられない理由に「残業問題」（長時間労働問題）があげられます。休日の確保などによる時短の推進、研修による効率アップ、業務管理による経営合理化などの対策をとりながら、まさにもがいている状況です。この問題の解決は、コンサルタント業界がすばらしい職域と言われるための未来に向けての関門といえます。

### 〈コンサルタントの出口関数 = f n（ビジョ

### ン、職能、情熱、組織、外部）〉

コンサルタントの現状の難問を打破して、将来に向けての展開方向（出口）をみつけるための関数は、企業内における将来ビジョンの共有、社会に認められる職能の確立、研究員が感性を豊かにみがき、情熱をよびおこすための対応、安心して業務に専念できる組織体制と企業外連携による業界ネットワークの強化が要素になりそうです。

コンサルタント業界の模索の中で新しい芽や動きが出てきています。その意味でコンサルタントとしての発展のための第2コーナーへ向けて走っている段階にあるといえそうです。各企業を超えた情報・人脈の交流や、業界を結集した各種研究会の開催、複数企業の共同研修会や情報発信の企画、大学とコンサルタントとの連携、組織活性化へ向けた努力など遅まきながらではありますが、確実に第2コーナーをめざしつつある段階を迎えています。

### コンサルタントの未来

#### 〈新しい関数（キーワード）の予感〉

第2コーナーへ向けて前進するためのキーワードははまだ確定しませんが、行動（DO）への踏み込み、専門コンサルタント（特質）の育成、社会関係の拡充（地域づくりへの貢献）、人脈と情報の地域センターとなること、さらに、それらが展開するなかでのコンサルタントとしての生きがいの定着化などが、未来関数の要素となるような予感がしています。

いずれにしても皆様方の暖かい御支援、厳しい御批判がコンサルタント強化の最大の糧と考えています。今後ともよろしく御指導をお願い申し上げます。

（代表取締役社長 かない まんぞう）

## コピーがオリジナルを越える 一本物よりホンモノらしいハウステンボス

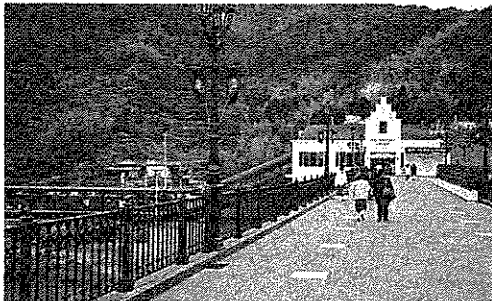
糸乗 貞善

ハウステンボス好スタート！！

前評判は上々、オープン後も新聞、テレビなどのマスコミはもちろん、電車の車内釣り、新聞の折込広告、JR電の看板等々、これほどにぎやかで評判の高いテーマパークとあれば、長崎まで行って足をのばさぬ手はないと思って3月末にのぞいてみた。ところが入ってみたら、場内はそれほどにぎやかではなかった。

にぎやかでない理由は二つある。そのひとつは入っている「人が少ない」ということである。3月末のウィークディということではあったが、ここで最も評判の高いテーマ館「ノアの劇場」の私の番号は2500番ぐらいであったから（午後4時頃）、1日の入場者は5,000人ぐらいかもしれない。にぎやかでないもうひとつの理由は「広い」ということである。JRハウステンボス駅からホテルヨーロッパまで歩くと、大体1.5キロぐらいにはなる。けっこう歩きつかれてしまう。この広い場所にたくさんの施設を作って、大変なお金がかかっただろうと思わずにいられない。

しかしよく考えてみると、ディズニーランドも広さにおいては今のところ劣らない。それでいて疲れ方のちがいはどこから来ている



ハウステンボス駅：このために新しくつくられたもので、ホームに特急がとまっているのが見える。

のであろうか。そのことを考えるために、ディズニーランドとハウステンボスの違いにふれてみたい。

フィクションの本物と

本物よりホンモノらしいコピー

ハウステンボス（以下HT）とディズニーランド（以下DL）は極めて効果的なコンセプトでくくられているように見える。一方はレンガひとつまで本国から取り寄せたというぐらい凝りにこった本物以上に本物らしい復元（コピー）であり、対するDLは、もともと存在しないお伽話による独創品（アン・アメリカン・オリジナル＝純米国産）である。DLを見た人が、「これは全部ニセモノじゃないか」と言ったという話があるが、DLは百パーセントニセモノ（フィクション）で出来ている。しかし見方を変えれば、お伽話を前提にするかぎり、それがカリフォルニアにあらうと東京にあらうと、どちらか本物で一方はコピーということはない。新しいものほどそのフィクションの感じが出やすいということにもなる。また古くなるとお伽話のイメージが壊されるので、常にリニューアルすることは不可欠である。

HTの方は古くなることによって、一層オ



アレキサンダー広場：ここで催が行われている。

ランダの本物に似てきて、実感が強まるのかもしれない。

子供性と大人性

HTの中を歩いていたら10才ぐらいの子供が「お母ちゃん、向いの山が見えると変だなあ」と言っていた。それを聞きながら、「なるほど“本物”をつくるんだから囲いの中だけというわけにはいかんなあ」と感じた。DLは“1才から92才の子供たち”を対象にしたといわれるように、すべての人の中にある「子供性」を対象にしている。その気にならなければこんなつまらないところはない。一から十までウソの塊だから。

DLはウソの空間づくりのために、外部と物理的遮断はもちろん、意識の遮断（エントランスにおける意識の切り替え）まで目論まれている。これは言われているように、映画や演劇における空間の遮断と同じであり、さらにDLでは入場者は単なる観察ではなく、出演したような気分になるように仕組まれている。これはフィクションだから可能なことであろう。

オランダ村にダイヤカットの職人が来ていてびっくりしたが、これはまさに本物だからであった。ニセモノであったら入場者は怒ってしまうだろう。つまりDLは子供性、HTは大人性というように、ここでも対象的な性格を示している。

以上述べたように、DLはお伽話であるか



オランダから来た芸人たち：アレキサンダー広場で。



ドムトールン塔：このように写真うつりのよいところが、至るところに。

ら「現実社会の権威を否定」しており、HTは「現存する街の権威の強調」をすることになっている。これらの対象性を表にまとめておく。

ハウステンボス	ディズニーランド
<ul style="list-style-type: none"> <li>○模倣</li> <li>○実在の復元</li> <li>○地域に復元・実在</li> <li>○モニュメント型</li> <li>○来訪者</li> <li>○現実社会の権威の強調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○独創</li> <li>○お伽話の実在化</li> <li>○外界との遮断</li> <li>○映画・演劇型</li> <li>○出演参加者</li> <li>○社会的価値感の否定</li> </ul>

ハウステンボスの投資規模など

すでにオープンしている部分は、歩いた感じでは30ヘクタールぐらいで、ここまでの投資が2,000億円といわれている。これが平成9年には152ヘクタール（駐車場など含む）で、合計5,000億円余になる予定である。

昨秋、北海道のカナディアンワールドを見に行った。行った日が悪かったから来場者が

ほとんどいなかったせいということではなく、見た瞬間に「これはもたないな」という気がした。理由は、投資額をきいていたのに、①客に対する売物がはっきりしないことと、②接客のふんい気が、まだまだサービス業にそぐわないお役所仕事の感じがしたからである。

ハウステンボスは、オランダ村からの蓄積があるし、お役所的などというところは感じられなかったが、何分投資規模がいかにも大きい。少々取越し苦勞を述べておきたい。まず2,000億円の投資というと、金利だけで100～150億円/年かかる。目標の年間400万人の来客があっても、金利だけで1人当たり3,000円ぐらいになる。大変だなあと思った次第。気になったことの二つ目は、これだけお金持になっている日本人が、いかに本物以上であっても、いつまで関心をもってくれるだろうかということである。気の早い人だと直接オランダに行って廻って来るかもしれない。セールスポイントを拡充して、何とかリピート客をふやすことが今後の課題であろう。

#### リゾート開発の視点

株や不動産のバブルがはじけると同時に、リゾート開発もはじけてしまったようであるが、それは、今まで考えられていたリゾート開発というものが、単に不動産開発でしかなかったからである。全国どここのリゾート企画でも決ったパターンがあって、①高級ホテル



リゾートマンション建設中：新聞には「進む社用リゾート化」と書かれている。

+マンション分譲で地域イメージを変える、②巨大投資によって地域振興になる、③若年雇用拡大で地元で喜ばれるもの、そして④必ずゴルフ場計画がついていることとなっている。もともとレジャー産業は、高級で大型になればなるほど、巨大投資型（重厚長大型）となり、投資の元利償還のためには高料金化せざるをえない。それはとりもなおさず、若年労働力集約型となる。

「大投資・高償却・若年労働力」を揃えるのは、1960年頃までならいざ知らず、過疎化の進んでいる地域にとっては不可能である。地方で今考えられるのは、「高齢労働力活用型で、在来資産活用による、非償却型、補足的低投資」が原則となる。

地方における問題は慢性的若年労働力不足であるが、ハウステンボスの場合は、まずまずうまくいっているようである。それも多数の参加企業の連携によるものであろうが、今後も快調に走って地域経済に寄与することを願っている。しかし一抹の不安もある。そこでひとつの提案がある。

#### 「混沌の国長崎」との連携を

長崎は数百年にわたって、中国やオランダなどと交流し、日本の窓口となってきている。そのため、中国・オランダなどと日本が渾然一体となった見事な風物がまちの中に多く生きている。これは正に“長崎オリジナル”である。



場内のクラシックバス：料金は1スター＝200円。

またまた“くいけ”で申訳ないが、例えば富貴楼の卓子(しっぽく)料理がある。百何十年かたった木造の、「五階建だか二階建だが分からないような建物」の座敷でいただく、「中国料理のような日本料理のような味」は、数百年の熟成をへて醸し出されたものである。面白いのは最後に出てくる「おしるこ」で、なんだかラテンアメリカで食べる甘いデザートみたいだが、やたらと甘い彼の国のそれではなく、ほんのりとした味わいで、酒のあとでも十分いける。この店のふんい気は、このおしるこが代表しているようで、上品で落ち着いた味であり、もちろん団体の宴会などに合うものではない。

ここまで書いて内容を省略すると恨まれるといけないので、一応メニューをのせる。お鱈(おひれ)という吸物にはじまり、おさしみ、酢のもの、はもの湯びき、三品の盛合せ、煮込み、あげもの、豚の角煮、季節の汁ものなどを仲居さんが順次食事の進みぐあいを見はからって運んでくれる。さらに料理の説明をききながらビール・酒を含めて1人1万円ぐらいである。先に述べたように最後におしるこが出て、お茶をいただいてゴチソウサン。これが東京や大阪であったら、家賃負担分で1万円、さらに高生活費の中で働く従業員のために1万円、しめて3万円といったところか。

もちろん、こんな御馳走を毎日たべることはない。チャンポン、皿うどんも長崎名物で、これで2日や3日十分豊かな気分で過せる。忘れてはいけないことに、魚が安くてうまいことがある。

食べものばかり書いたが、長崎には街のいたるところに数百年の混沌の文化がある。安い宿を見つけて、一週間“混沌のオリジナル”にひたれば、ひとつの熟成文化を堪能でき

客室料金表

ホテル名	客室タイプ	料 金
迎 賓 館	ロイヤルスイート	¥300,000
ホテルヨロロップ	スタンダード	¥ 30,000
	デラックス	¥ 34,000
	エグゼクティブ	¥ 47,000
	メゾネットスイート	¥ 50,000 より ¥200,000
	スイート	¥ 70,000 より ¥ 90,000
ホテルアムステルダム	ロイヤルスイート	¥200,000
	スタンダード	¥ 28,000
	デラックス	¥ 32,000
	J・スイート	¥ 40,000
フォレストヴィラ	スイート	¥ 80,000
	コテージ	¥ 48,000 (4名様ご利用)

ホテルの料金表：この値段でも予約でいっぱいということであった。日本人の金持度がわかろうというもの。ハウステンボス入場者は、平均1人当たり1万3000円の売上げが想定(計画)されている。

るだろう。これぞリゾートの真髄である。この長崎の混沌の風味とハウステンボスが結びつけば、東京、大阪から客を呼ぶことができるのではないか。オランダへ行くのちがった“ホンモノ”の体験ができると思う。

とにかく一度ハウステンボスをご覧ありたい。その節には博多にも寄って、ネイティブランドの屋台のラーメンや、もつ鍋などに挑戦していただきたい。もし御一報いただければ、本来のリゾートに不可欠な「安くてうまい」ところを御紹介します。

(株)九州地域計画研究所 いとのり さだよし



## お初天神ビルがオープンしました

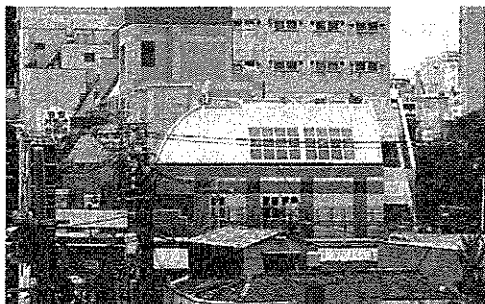
倉本 恒一

## 「お初天神」に生まれた飲食ビル

梅田、曾根崎のお初天神ビルが6月25日にオープンしました。お初天神は御存知のとおり、近松門左衛門がお初と徳兵衛の実話をもとに劇化した「曾根崎心中」の舞台でもあり、南の法善寺と並ぶ大阪の名所になっています。神社の正式の名は「露天神社」で菅原道真公のゆかりの地です。境内は戦後、「ヤミ市」がたち、以後飲み屋街として賑わうようになりました。しかし大部分が不法占拠だったため、神社側の訴訟で10年後に立ち退くことで和解し、3年前に9軒の店舗を残して撤去されました。境内は戦災で本殿を消失し、社務所も戦後建てたままの仮住まいの状態でした。本殿は昭和32年に再建されましたが、その時は境内の一部を手放して資金に当てたそうです。

この露天神社の境内の再整備計画は、北側の商店街に面した敷地に飲食ビルを新築し、その賃貸料等の収益で、飲食ビルを初め、境内に残った店舗の整理や社務所、神具庫、門等を建替えるという事業企画提案からスタートしました。今回の「お初天神ビル」はこれらの境内整備事業の先行工事として、オープンするものです。

梅田は、現在阪急の北側の茶屋町の再開発



御堂筋から見た建てこんだビルの谷間に建つお初天神ビルと神社の社

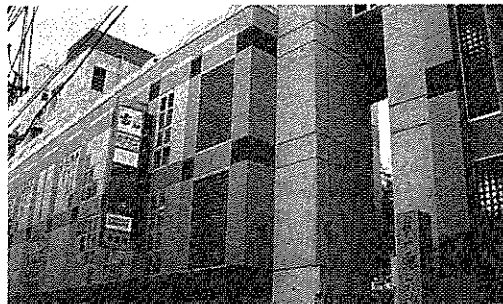
や新梅田シティ等の大規模な開発事業が進行し街が変わろうとしています。地元の「曾根崎お初天神通商店街」では、梅田花月劇場の新築オープンと合わせて、「お初天神ビル」のオープンが地域に根ざしたまちの活性化につながるものとして期待されています。

## 幅広いサラリーマン層をターゲットに

お初天神の通りは大衆的な飲食店の多い歓楽街として親しまれてきたところです。また駅から淀屋橋方面のオフィス街への通り道になっていて、通行量調査では、平日はサラリーマン層が7割強あり、土、日曜日はヤング～ヤングアダルトが7割を占め、女性も多いことがわかりました。これらのことから、この飲食ビルは若い層を中心に年配層まで幅広いサラリーマン層をターゲットとする店づくりをすることにしました。また、残っていた店舗は優先的に移れるような条件にし、新たなテナントも関西の味を売り物とする店で構成するようにしました。

## 苦慮した建物のデザイン

建物のデザインについても若い層に好まれる明るくモダンな建物にしたいということと、建物が神社の背景になる為、落ち着いた風格をもったものでなければならないという、あい矛盾する要求を実現する必要があります。そこで神社の後背の土塀を建築的に構成するように、外装は白とグレーのみかげ石で櫓格子模様を構成し、その中にアルミパネルとサ



ビルの中央部は神社の境内を通りぬける北門になっている



さんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

ッシュをモザイク的に嵌めたパターンとし、最上階は円型ドームのアルミの屋根とサッシュで覆いました。全体的にモダンな素材と形態を使いながら、けげげしさを押さえてモノトーンで統一するようにしました。

引き続き社務所などの工事が進められ、来年の夏まつりまでに全て完了する予定です。境内は今でもサラリーマンやオフィスレディーのやすらぎの場所でもあり、浪速の歴史と信仰が共存した新たな都会のオアシスになることを期待しています。

(大阪事務所 くらもと こういち)

空からみるベイエリア  
 “鳥の目になって大阪の町と海を見た”  
 池田 さちよ

セスナに乗って大阪ベイエリア遊覧

「あー楽しかった、あっと言う間に終わってしまった。年に一回ぐらい企画してもいいですねー。」地上に降り立った皆の第一声でした。

5月17日、私たち物好き(?)が14人大阪の八尾空港に集まりました。

これからセスナ機によって関西新空港を中心にベイエリアを遊覧しようとやって来たものです。前日の大雨も止み、すっきりとした五月晴れとはいかなかったのですが、穏やかな天気にも恵まれました。

3人乗り2機と9人乗り1機で午前11時同



巨大な人工島

時に出発、数分後には空中に浮かんでおり、まさきに目に飛び込んできたのは、仁徳天皇陵です。手に取るようにとはこのことなのでしょう、広大な緑の陵を囲んだお堀の水とその廻りの緑の帯は圧巻でした。周辺の住宅地には緑が殆ど見られないだけに、それとの対比が印象的でした。そのまま堺市、高石市の上空の巨大なコンビナートや、岸和田市の木材コンビナートを眼下に空路西へ移動しました。高度600 呎と言うことでしたが、建物はもとより、岸和田の貯木場の材木の一本一本が見分けがつく程間近に見えました。

カメラに入りきれなかった新空港

新空港では、中央管制塔と周辺の施設の建設が進んでおり、巨大な人工島が一大都市へと変身する過程と、工事中の「りんくうタウン」から真っ直ぐに伸びて、関西新空港を結ぶ連絡橋を横に眺めて、空の上から一周しました。島が大きいのかカメラが安物だったのか(多分両方だったのでしょう)、どの位置からも空港の全貌をカメラに納めることができませんでした。いずれにしてもこの日はもやがかかっている視界はあまり良くありませんでした。

掃路は、海側から湾岸を眺めながら北上し、南港上空から市街地に入り事務所のある谷町周辺を回って八尾空港に戻りました。

所要時間約50分、料金一人11,500円(本来35分コースの値段です。団体扱いで割引して



仁徳天皇陵周辺

1992年7月1日

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

もらいました。)、途中で操縦桿を握らしてもらっての空中散歩でした。

### 「ため池の会」での発案が実現

1903年最高時速16km、飛行距離26m、飛行高度3m。ライト兄弟が世界初の動力飛行機“フライヤー”により人類の夢が実現した時の記録だそうです。現在、私達はいつも簡単に、その夢を生活の中に取り込んでいます。もし、ライト兄弟が現在の有り様を見たらきっと目を見張ることでしょう。ありがたい世の中に生まれてきたことです。

この企画のきっかけは、毎月1回様々な分野の人々が集まって例会をしております「ため池の会」のメンバーが、お酒を飲みながら誰ともなく言いだした事がきっかけでした。

これからも、面白い企画をしていきたいと思っております。

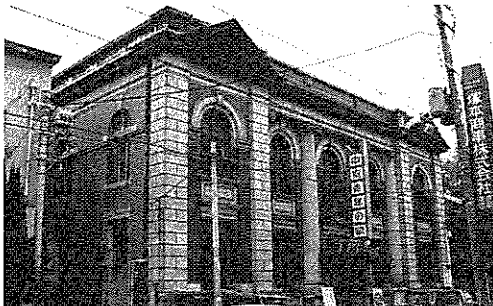
(編者パッケイナツヨル いけだ さちよ)

### 「京都市中京青年の家外壁保存願未記」

大河内 雅司

42号に続き、近代建築保存のニュースを京都から。中京青年の家は、明治40年、京都商工銀行として命を受けました。

レンガづくりの平屋建てながら、左右対象の建物正面に三角破風を2つのせ、支える柱の間にはアーチを掛けて、垂直性を漂わせながら、玄関にはイオニア式の列柱を4本。時



東洞院通りに面したファサード

代様式がにぎにぎしくも上手にまとめられており、楽しめる一作でした。

ある日突然、ここに京都市の女性センターが、計画され、この建物を巡って議論が沸騰。全面保存か部分保存か？結論からお話しますと、部分保存で建物の正面一皮分が残されることになりました。

このご時世、限られた敷地で効率優先の計画がされますから、全面保存は難しい。「歴史的界限景観地区」からもはずれ、辰野金吾大先生の平安博物館のように、文化財というお墨付きもなく、全面保存への道は険しかった。なにしろ、京都は近代建築の宝箱ですから、この建物の魅力も色褪せます。

個人的には、公園に面したレストランとして再生させたかった。床面積が多少減っても、歴史を伝える豊かなレセプション空間が得られたのではと、当時の計画担当者の思い出を書き留めました。

(大阪事務所 おおこうち まさし)

### ちんちん電車搭乗記

吉村 礼子

5月8日、大阪事務所の新入所員歓迎会が行われました。例年のごとく、主役である新入所員が企画から全て任されます。今年は男性5名女性4名と、かなりの人数が入社し、アイデアも色々と飛び交っていたようでした



チンチン電車天王寺駅

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

が、結局落ち着いたのが「大阪くささ」である(?) ちんちん電車貸し切りツアーと、飛田にある鯛よし百番でありました。

ラッシュ時の電車で宴会!!

ちんちん電車貸し切りツアーとは、阪堺電車が行っていて、路面電車一車両分を貸し切り、天王寺駅から堺・浜寺公園駅までをノン・ストップで往復し、車中では持ち込みで飲んだり食べたり大騒ぎができるというものです。

お花見の時期などはよく貸し切られていたようですが、この日は平日の金曜日であり、通常の電車にまじっての出発で、まして通勤ラッシュタイムとも重なり、かなりの人に中をのぞき込まれながらの発車でした。

車内はというと、向かい合った長いベンチ状のイス(普通の電車のイス)に、真ん中に長方形のテーブルが3台、卓上には花が飾られていて、つり革にはお祭りちょうちんが張りめぐらされているという、ちょっと派手な印象をうけましたが、普段、黙々と乗っている電車で宴会をするのですから、これくらいの派手さがちょうど良いのかもしれませんが。実際、気になっていたのは夕方の明るいうちで、暗くなってしまうと中から外は見えませんし、大騒ぎしている内にすっかり忘れていましたが……。

路面電車としてのおもしろさ

私自身、路面電車に乗ったのは小さい頃の



ハデな車内風景

1、2度くらいしかなく、記憶もほとんど残っていませんでした。しかし、電車が道路の真ん中を通り、真横を車がすれ違い、人々も電車のすぐ脇を行き交って行くという光景が珍しく、自分の町にはない違った風情があってなかなか良いなあ、と思ってしまいました。

天王寺駅を発車して浜寺公園駅で折り返し、終点の今池駅(天王寺駅終点コースもあるそうです)までの往復2時間の旅は、お酒が入っていたせいもあって知らず知らずのうちに終わり、気分良く次なる会場、飛田・鯛よし百番へ向かったのでありました。

今回の歓迎会の御陰で、大阪の町もいろいろあるんだなあ、と改めて感じさせられましたし、「町を見る」という事があまりない私にとって、大いに「大阪くささ」を味わせてくれた企画でした。

(大阪事務所 よしむら れいこ)

Attenti Alle Tache!  
— スリの宝庫 —  
中井 知加子

私事ですが、新婚旅行でローマを訪れた時の出来事です。

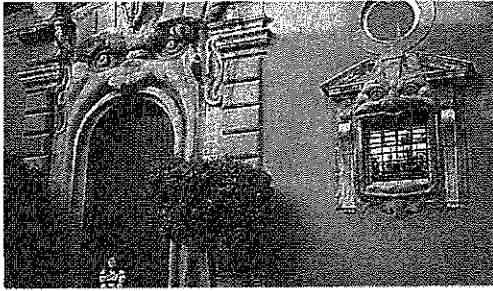
フオロ・ロマーノ、コロッセオ、カラカラ浴場跡、パラティーノの丘と、遺跡のある美しい光景を想像しながら夢を膨らませてローマに着いた途端、私達を出迎えてくれたのはスリの集団でした(被害なし)。そのいくつかの手口を紹介したいと思います。

地下鉄待ち伏せタイプ

左手で赤ちゃんをだき、腰にダンボールをたてたジプシーのおばさんの集団。地下鉄テ

1992年7月1日

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況



人の顔形をした遊び心のある窓と入口

ルミニ駅の階段にて待ち伏せし、地下鉄の階段を一步登った途端取り囲み、赤ちゃんに気を取られている間に、ダンボールの下から手をのぼしてスル方式。(変な格好で目立つ) 用もないのに話しかけてくるタイプ

コロッセオなど名所に出没し、いかにも観光客の私達に道を尋ねたり、タバコをくださいと近づき、気を許した時にスル方式。(いかにも観光客の私達に道を尋ねるのは妙)

#### とにかく大騒ぎタイプ

駅の銀行で両替してお金を受け取ると、近づいてきてペンをくれると言う。いらないと断ると、なにやら急に大声でわめきちらし、銀行の人が電話をかけはじめるとすごすご帰っていった。実はこれはどのくらいお金をおろしたのか、調査しにきているとのこと。後でつけて隙をねらってスル方式。(コワイ) その他にもフェイント方式、2段方式などいろんなパターンがありますが、又の機会に。

-Attenti Alle Tache

皆さんポケットに注意！-

(京都事務所 なかい ちかこ)

### 「大学と地域」国際シンポジウム

山田 克雄

49号でも紹介させていただきましたが、昨年5月に立命館大学人文科学研究所・京都市共催による「大学と地域」国際シンポジウムが、京都の立命館大学において開催され、出席する機会を得ました。大学における知的集積や教育研究活動を活用し、地域に貢献することを目標に、大学と地域の協力のあり方を探ることを目的とし、海外研究者を含めた国際シンポジウムとして開かれましたもので、将来の大学構想や、地域と大学との協力について、新しい仕組みや制度を含めた多面的な意見が交換されました。この国際シンポジウムは、本年も引き続き以下のように開催が検討されています。

#### 1992年「大学と地域」国際シンポジウム

◎6月4日～6日「環日本海を展望した知的インフラ整備のための京都北部地域セミナー」

◎9月9日～11日「アカデミック・インフラ国際シンポジウム及び学術都市サミット」

(連絡先：立命館大学人文科学研究所 大学と地域研究会、事務局林堅太郎教授、TEL075-465-8225)

(京都事務所 やまだ かつお)

#### 編集局より

前号でお知らせしましたように、当誌も国会図書館へ納本させていただいております。ちなみに、本号の表紙右上にある記号は、ISDS(国際逐次刊行物データシステム)で活用される国際的なコード番号で、同図書館の方から表記するよう依頼のあったものです。お知らせしておきます。

## 新刊旧刊書評紹介

ジェームス・W・ヤング著 TBSブリタニカ発刊

## 『アイデアの作り方』

紹介 中室 紋子

## アイデア形成のための公式

アイデアをつくる。そう簡単にはいかないことである。いくら悩んでも、アイデアは、そうそうできてくれるものではない。

「あなたはアイデアをどうして手にいれるか」という、あまりにも素朴な質問に、この本は答えてくれている。

著者のジェームス・ウェブ・ヤングは、アメリカの広告代理店で広告の制作に従事した人である。広告はアイデアを必要とする。その広告を作る人が、アイデアについて語ってくれるのだから、これは本物だろう。

## アイデア作成の二つの原理

どんな技術を習得する場合も、学ぶべきことは第一に原理であり、第二に方法である。

アイデア作成の基礎となる一般的原理には、大切なことが二つある、とヤングは言っている。その二つとは、

- ・アイデアとは、既存の要素の新しい組合せ以外の何ものでもないということ
- ・既存の要素を新しい一つの組合せに導く才能は、事物の関連性をみつけ出す才能に依存するところが大きいということである。

## アイデア作成の五つの段階

前の二つの原理を知ったうえで、実際にアイデアを作る方法が語られている。

ヤングによると、アイデアが作られる過程は、五つの段階に分けられる。

- ①資料を収集すること
- ②資料を咀嚼すること
- ③意識の外に問題を放り出すこと



## ④アイデアがひらめく瞬間

## ⑤アイデアを具体化すること

## アイデアを作るということ

アイデアを作るためにしなければならないのは、ごく簡単なことである、とヤングは言う。

だが、この簡単なこと、というのが曲者なのである。しなければならないのに、つい面倒で後に回す、ということをして、我々は日常の中でも繰り返している。

例えば、アイデア作成の第一段階。資料を集めるという作業は、地味である。地味でいて、しかも面倒である。こういう作業をきちんとするには、強固な意志が必要である。

毎日の中でも、全てのことを頑張る必要はないのだ。そんなことをしていたら、息が途切れて死んでしまう。

だが、面倒に思えることでも、やらねばならないことは、やらねばならない。それを怠っていると、何も生まれてはこない。

何にでも興味を持つこと、その興味を中途半端にしないこと。それを肝に命じて、毎日少しいい加減に、でも、真面目に、生きていきたいらいいと思う。

(大阪事務所 なかむろ あやこ)

# まちかど

## 再生されるか都会の栄華part2

鴛飼 奈弓

歴史的建造物の建て替えにおける外壁等の現物保存再生や復元再生について42号でとりあげたが、その後もノスタルジーブームとは別に、こうした保存と開発あるいは維持と更新の両立を目指す傾向は続いている。

本号きんきょう欄でご紹介している中京青年の家建て替え工事が現在行われている。目抜き通り側外壁を補修・補強して看板建築的に残す部分保存工事である。

道路側から鉄骨足場とジャッキアップで一チ部分を支えている。よく見られるシーンではあるが、芝居の舞台装置の様に空虚感が漂っていて面白い。ここで現実の活動が行われていたのか、同じ外壁面であっても裏側に建物が有ると無いとでは受ける印象がまるで違う。

明治初期建造物の集積地である付近の三条通では、すでに中京郵便局が外壁保存による施設更新および現物デザインの模倣的な増築

を行っているほか、京都文化博物館でもイメージ継承をしているという増築がなされている。(京都事務所 うかい なゆみ)



## アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本社	〒600 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル6階)	TEL (075)221-5132(代) FAX (075)256-1764
京都事務所		
大阪事務所	〒540 大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OBFプラザビル15階)	TEL (06)942-5732(代) FAX (06)941-7478
名古屋事務所	〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階)	TEL (052)962-1224(代) FAX (052)962-1225
東京事務所	〒180 東京都新宿区新宿2-5-16 (霞ビル401号)	TEL (03)3226-9130(代) FAX (03)3226-9560
㈱九州地域計画 研究所	〒810 福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL (092)731-7671(代) FAX (092)731-7673
㈱アルパックイン ターナショナル	〒540 大阪市中央区谷町1丁目5番7号 (ストークビル天満橋10階)	TEL (06)943-7016 FAX (06)943-7026
㈱都市居住文化 研究所	〒604 京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225 (朝陽ビル4階)	TEL (075)252-2231 FAX (075)252-4417